

昨年、105歳で生涯を終えた彌勒祐徳（みろく・すけのり）は、西都市の出身です。美術教師として主に県内の中学校などで教えながら、躍動感あふれる独特の画風で個展を中心に活動し、1000点を超える数多くの作品を生み出しました。退職後も市民向けの美術教室を開くなど、地元を根を張り、人間味あふれる人柄で誰からも愛された彌勒は、祭りや神楽、桜などの自然をテーマに、命尽きるまで描き続けました。

本展では、生涯現役を貫き、自らの画業を全うした彌勒祐徳の作品を、生前の言葉とともに紹介します。

また、洋画家の太佐豊春、彫刻家の鬼塚良昭など、西都市出身やゆかりの作家たちの作品も紹介します。彌勒と同世代や、その後続く作家たちのバラエティあふれる作品も併せてお楽しみください。

## ■展示作品リスト

No.	作家名	生没年	作品名	制作年	大きさ(cm)	技法
1	彌勒 祐徳	1919～2024	作品 3 (蛾による構成)	1962 (昭和37)	92.0×106.0	油彩
2	彌勒 祐徳	1919～2024	作品 4	1962 (昭和37)	75.5×108.0	油彩
3	彌勒 祐徳	1919～2024	再婚	1974 (昭和49)	161.4×129.5	油彩
4	彌勒 祐徳	1919～2024	村まつり	1977 (昭和52)	162.0×131.0	油彩
5	松本 周一	1928～1994	小さな造船場	1980 (昭和55) 頃	90.8×106.6	油彩
6	黒木 亮	1919～2010	島の市	1956 (昭和31)	91.1×174.2	日本画
7	サイタ 亨	1903～1987	海辺と精霊	1976-78 (昭和51-53)	44.1×71.5	水彩
8	太佐 豊春	1921～2005	地霊 其の二	1973 (昭和48)	79.7×109.0	水墨, 水彩
9	杉山 昭	1927～	作品 62-5	1962 (昭和37)	162.2×130.3	水彩
10	久保田 益央	1929～	風景	1982 (昭和57)	162.1×130.5	油彩
11	鬼塚 良昭	1935～	坐像	1961 (昭和36)	100.0×60.0×50.0	彫刻